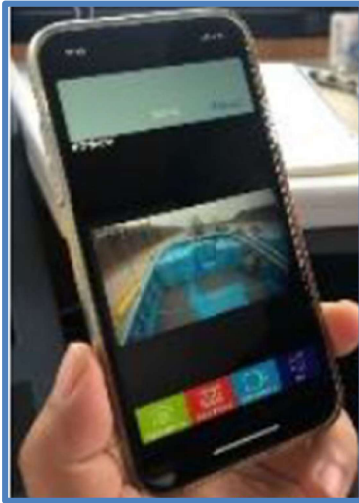


## ① 能生・糸魚川地区

# 能生・糸魚川地区 舫いプロジェクトの取組について



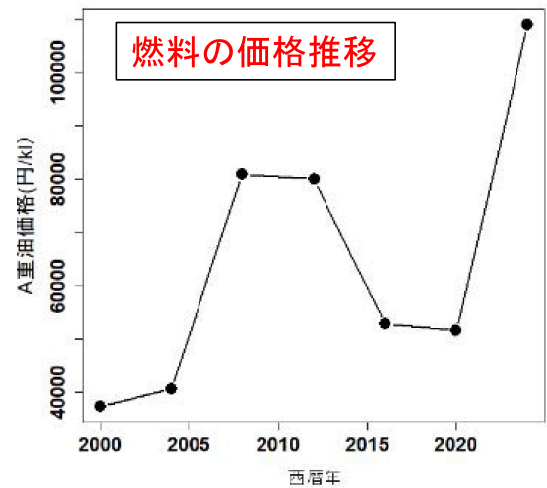
能生・糸魚川地区地区舫いプロジェクト協議会  
発表者 中村 浩

## 能生・糸魚川地区の特徴

急峻な海底地形が生み出す多様な漁場と漁港からの近さ

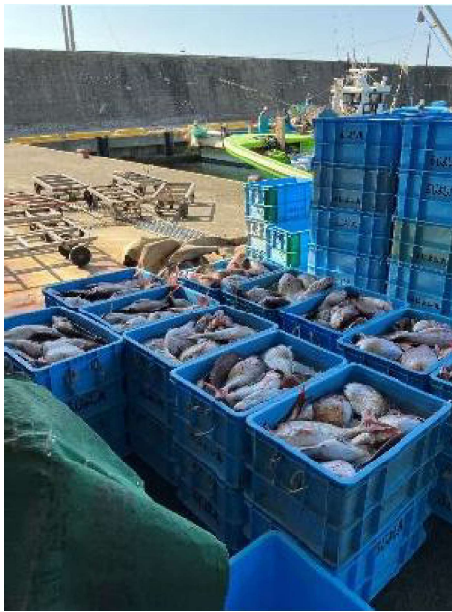
高鮮度・豊富な魚種

漁業コストの上昇  
資源量の減少



持続的な水産業の発展にとって  
単価・付加価値の向上は重要

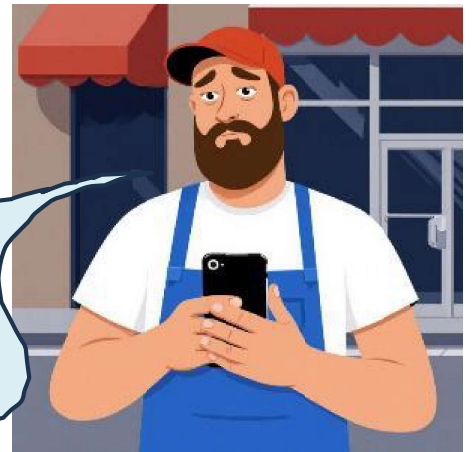
# 能生・糸魚川地区の課題



予想できない豊漁



【流通】

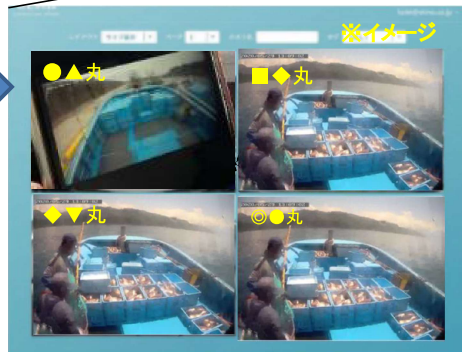


こんなに大漁なら、  
たくさん運べる用意をしておけば良かった  
時間があれば買い手の確保もできたのに...

## プロジェクトの方針

### ネットワークカメラの活用による漁獲情報共有

- ・各漁船に情報発信ツール(ネットワークカメラ)を設置
- ・市場関係者、漁協がスマートフォン等でも閲覧可能(静止画として閲覧)



市場・流通関係者



- ・今日は大型のマダイが1隻で20タンクか
- ・より大きなトラックを用意して、県外の売り先にも...

流通・販売額  
の変化



【流通業者】  
柔軟に対応する  
時間が生まれる



# 能生・糸魚川地区プロジェクト

## ■ メンバー

上越漁業協同組合  
 上越漁業協同組合仲買人組合  
 糸魚川市農林水産課  
 新潟県農林水産部水産課

## ■ オブザーバー

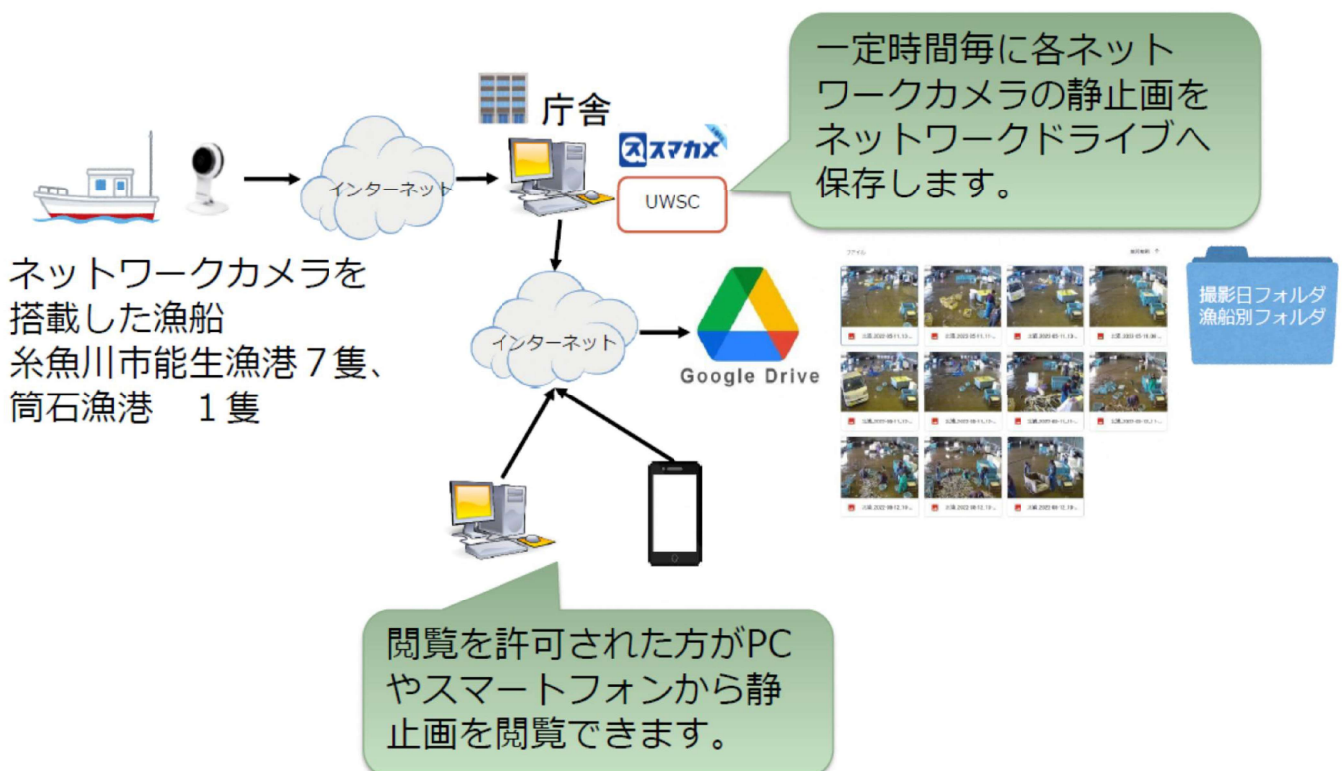
国立研究開発法人水産研究・教育機構  
 水産資源研究所

## ■ プロジェクト推進計画

取組内容	R5	R6	R7	R8	R9
漁獲情報共有システムの運用	→				
システムによる情報提供拡大の検討	→				
システムの高度化の検討		→			
高度化されたシステム導入の検討					→

## プロジェクトの実施

### [1年目] 情報共有システムの構築



## プロジェクトの実施

### 【1年目】 情報共有システムの構築



## プロジェクトの実施

### 【1年目】 情報共有システムの構築

#### 【成果】

- トラブルもなく、システムの構築はできた
- 利用者からは出漁や魚種の確認ができたとの評価

#### 【課題】

- カメラの映像だけでは利用しにくく、サイズや数量などの情報も必要
- ランニングコストが¥5000/隻/月ほどかかる

# プロジェクトの実施

## 【2年目】：ネットワークカメラ導入の影響調査（アンケート）

漁業者8名と仲買人8名にアンケートを実施



### 【漁業者】

- 早期購入には漁業者側にもメリットがあると感じている
- カメラ導入に手間は感じていないが、恩恵も感じていない

### 【仲買人】

- 早期購入にメリットを感じるのは半数
- 取引に活用している業者はいない
- 数量等が分からないと活用は難しい

# プロジェクトの今後の展開

## これまでのまとめ

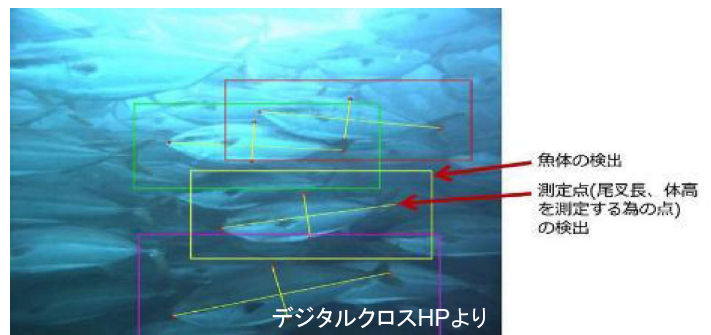
- いつでもどこでも出漁中の映像を見ることができた
- 漁業者も流通業者もリアルタイムで漁獲情報を共有することにメリットは感じている
- ただし、カメラの画像だけでは課題を解決できない

## 【解決策】AI技術の活用

◎水揚げ時に魚の種類・大きさ・量を判別できるシステムの試験的な導入の検討



底曳き網漁業



AIによる魚種判別(規格・漁獲量)

# プロジェクトの今後の展開

## これまでのまとめ

- いつでもどこでも出漁中の映像を見ることができた
- 漁業者も流通業者もリアルタイムで漁獲情報を共有することにメリットは感じている
- ただし、カメラの画像だけでは課題を解決できない

## 【画像の新たな活用法】

◎小売・飲食店(希望者・登録制)を対象とした漁獲現場情報の提供



消費者を対象とした情報発信を行うことで消費喚起・需要拡大へ繋げる